

建具工事(大扉)

3月18日に、岐阜県関市で製作された大扉が、鶴丸城御楼門の現場に到着しました。
トラックの上の人と比べても、かなり大きいですね。

大扉1枚の大きさは、高さ約 5.2m 巾約 2.5m 厚さ 18cm。重さは1.4tにもなります。



盤木の上にコロ(丸い鉄の棒)を並べ、大扉を御楼門内部へ転がして取り込む準備をしています。



クレーンで下ろされた大扉(重さ1.4トン)をコロの上に、慎重に乗せていきます。



大扉の縦框(たてがまち)には、肘壺金物(ひじつぼかなもの 丁番)を取付けます。



手で押してコロの上を転がして、鏡柱の方へ近づけていきます。



2階の床板を剥がし、チェーンブロックを設置します。
大扉をチェーンブロックで、ゆっくりと起こしていきます。



先に鏡柱に設置していた肘壺に、大扉の肘壺の位置を合わせ、微調整しながら納めていきます。



同じ要領で、もう片方の大扉も納めます。



大扉の左右の潜戸(くぐりど) 高さ 約3.0m 巾 約1.8m 厚さ 15cm 重さ 400kg も
同じ要領で取付けます。



大扉 建込み完了です。



扉がはまると、建物全体が引き締まって見えます。
あとは、門(かんぬぎ)などを取り付けます。